

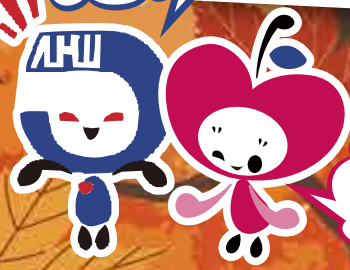
Campus Magazine

vol.38

AUTUMN 2017



保健大学の
魅力が結集!!



モーリーとリンリン



学生さんの一体感が、
とても印象的でした!!

10月7日8日青森県立保健大学大学祭が行われました。今年もたくさんの方々に来場していただき、とても活気のある笑顔であふれる大学祭となりました。今回大学祭を開催するにあたってご来場いただきました方々、ご協力していただきまして作った食べ物、保健大学ならではのヘルスリテラシークイズ、健康に関するブース、芸人ライブや縁日もたくさんの方々に楽しんでいただけてとてもうれしく思っております。学生のパワーをはじめ、保健大学全体のパワーを地域のみならず存分に感じていただき、また学生自身も一人一人が企画やサークルの活動を通して楽しんでいました。今年の学祭はため新鮮な印象を残し、またサークルを通して学年学科を超えたチームワークが強くなった大学祭でした。子どもからお身も地域の方々をはじめたくさんの方々の協力があって保健大学が成り立っていることを感じ、まさにたくさんの方々のピースをもって保健大学のパワー、地域のパワーが詰まったパズルを完成するような気持ちになりました。皆さんの心にキラッと光る思い出になればと思います。

大学祭実行委員長 坂井 美香

サークル活動

ボランティアサークル めいと

めいととは、地域で様々なボランティアを行っているサークルで、現在50名がサークルに登録しています。また、現在7名のスタッフが、各団体の皆様と学生との連絡調整を行い、多くのメンバーに関心を持ってもらい、活動がより活発になるよう、メール等で呼び掛けをしています。

活動場所は市内を中心に県内各地の時もあります。

今年度10月時点では、植樹、障害のある子ども達とのSST(ソーシャルスキルトレーニング)やフットサル、マラソン大会、県スポーツ大会、失語症者との簡単なリハビリ、知的障害のある方々

とのPC講義、献血促進、近隣施設の行事、子ども向けのイベント、募金活動等を行いました。

地域貢献が目的というよりは、学生の皆さんに、様々なボランティアを通して地域のことや様々なイベントを知ってもらい、多くの経験や人との出会いなど、形に現れにくい財産を得てもらいたいと考えています。

大学祭では模擬店を出店し、ボランティアを通して交流のある人にも見ていただきました。



今後はスタッフ間、メンバー間の交流も大事にしていきたいと思っています。皆さんの加入、参加、お待ちしております！！

硬式テニスサークル



私たちのサークルは、現在50名ほど在籍しており、A棟裏のテニスコートで活動しています。活動日は毎週水

木で、時間帯は17時～21時までです。また、土日でも活動している日はあり、テニスコートも基本的に毎日使用可能ですので、個人の都合に合わせて活動することができるのも魅力の一つであると思います。

主な活動内容は、青森市主催のテニス大会への参加、各種レクリエーション(新入生歓迎会、追いコン、学祭出店、BBQ、玉

納めなど)の実施です。

レクリエーションについては、先輩・後輩の壁はなく、みんなが和気あ

いあいと楽しむことができます！

そして、大会については、毎年入賞者を出しており、毎年の参加と実績を残していることから、保健大の名前を地域に認識してもらうことができていると感じています。これからも大会への参加を通じて、少しでも地域の活性化に貢献できればと思っています。

硬式テニスサークルは、経験者よりも初心者のほうが多く、大学からは始めるにはもってこいだと思います。大学から体を動かしてみたい方はぜひ硬式テニスサークルへ入りませんか？みなさんの参加をお待ちしています。

津軽三味線サークル

津軽三味線サークルは現在17人で活動しており、学外にいらっしゃるプロの津軽三味線の先生に教えていただいた曲や民謡を、みんなで日々練習しています。

主な活動は施設等への慰問活動、各大会への参加、大学祭・公開講座での演奏などです。活動時間は平日の放課後で、いつでも来たい日に来てもらい、各種イベントがある時に集中的に練習に励んでいます。その練習の成果が、今年はGWの5月4日に開催された津軽三味線日本一決定戦団体りんごの部で準優勝、9月18日に開催された津軽三味線腕くらべ団体Aで3位と賞をいただき、

各個人でも大会への出場及び入賞を果たしています。

津軽三味線と聞くと、マイナーな楽器だし難しそうというイメージがありませんか？ですが私たち津軽三味線サークルのメンバーは、約9割が大学から始めた初心者です！また津軽三味線には多くの魅力があり、同じ弦楽器でもギターやベースとは違う独特な音色と曲調がとても面白い楽器です！

そんな青森伝統の楽器である津軽三味線の魅力を、1人でも多くの人に知っていただきたいと思っています。そのた



めに今後も活動していきますので、これからも津軽三味線サークルをよろしく願います！興味のある方はぜひお越しください！

陸上競技サークル



り投げで5位入賞者も出ました。

平成29年の春からは早稲田大学のキャプテンとして箱根駅伝を走った経験をお持ちの、石橋修先生にご指導いただき、この夏は駅伝の町・東北町での合宿も行いました。

平成29年9月14日には岩手県の北上市で行われた、全日本大学女子駅伝の東北地区予選会に初出場してきました。この大会で優勝すれば全日本大学女子駅伝に出場できるのですが、宮城の強豪校に挑んだ結果、学校

対抗の部(オープン参加を除く)では5校中5位でした。悔しい結果とはなりましたが、選手層が薄い上、本学以外の出場校は宮城の大学という状況の中、初出場を果たせたことには大きな意義があると思っています。今年作った襷を来年、再来年と受け継いでいきたいです。

また、県内の各マラソン大会にも積極的に参加していますので、陸上を自分のペースで楽しみたい方も大歓迎です。

これからも青森県立保健大学、陸上競技サークルをよろしくお願ひします!

本サークルは主に月、水、金曜日の放課後と土、日曜日の午前中に練習をしています。青森大学陸上部さんとの合同練習も行い、徐々に力をつけ、平成29年度の東北インカレでは女子や

オープンキャンパス

夏本番の8月6日(日)に「オープンキャンパス2017」を開催しました。猛暑にも関わらず、県内外から多くの高校生とその保護者の方々にご来場いただき、キャンパスは熱気に包まれました。オープンキャンパスは保健大学を目指す高校生・受験生の皆さんにホームページや大学案内では分からない教育や研究方々などを体験的に理解していただくために毎年開催しています。

各学科の魅力的な講義を一足先に体験する模擬講義

や趣向を凝らした体験・見学コーナーなどの他、入試や学生生活など、参加者の皆さんが在学生や教員の話に熱心に耳を傾ける姿が見られました。

多くの高校生とその保護者の方々が、保健大学のキャンパスに実際に足を運び、本学の魅力を感じてもらえたことが、来場者の雰囲気やアンケート結果からも伝わってきました。

オープンキャンパス2017の様子

看護学科



理学療法学科



社会福祉学科



栄養学科



就職活動支援

就職活動セミナーでは、外部講師による「ビジネスマナー」、「自己分析」、「応募書類の書き方(志望動機)」、「面接の受け方」等のレクチャーを行っています。学年あるいは学科に分けて年に15回開催しています。

また、学科毎に卒業生を招き、現在の仕事や職場のこと、就活のコツを伝授してもらう「就職ガイ

ダンス」はどの学科も好評で、ガイダンス後は卒業生が在學生に親身に個別相談に応じています。さらに、年に4回、本学主催による就職説明会を開催しており、200ヶ所以上の事業所が参加します。他にもハローワーク出張相談会や公務員試験対策学内講座など、学科や職種に応じたきめ細やかな支援を行っています。



●就活セミナー4年生「面接の受け方」(5月8日開催)



●栄養学科就職ガイダンス(10月20日開催)

国家試験対策

今年度は、看護学科の取組についてお伝えします。



看護学科では、看護師・保健師・助産師の国家試験対策を学生主体で行っており、国試対策担当教員は模擬試験や国家試験対策講座の開催をサポートしています。また、模擬試験や国家試験対策講座の受講状況や成績を確認し、必要に応じてゼミ担当教員が個別に対応しています。国家試験対策の学生委員は3年生から決定し

ており、4年生の学生委員からの詳細な申し送りや低学年模試の開催等を通して国家試験対策の重要性を認識し、勉強に打ち込んでいくイメージを掴んでいます。その他、図書館以外に学習室の開設や国家試験対策に必要な情報誌なども大学内に常設し、学生が自主的に情報を得、学習できる環境を整えています。

COC+事業「女子学生のキャリア支援プログラム」の取組

平成27年から弘前大学が代表校で「オール青森で取り組む地方人財育成・定着事業」が展開されています。この事業には、県内の主な大学・県・市が参加しており、本学も協定を締結し、「女子学生のキャリア支援教育プログラム開発」のリーダー校として、他大学とともに事業に取り組んでいます。

学生向けセミナーは、自分の年齢に近いゲストの働く経験を聞き、話し合いを通じて、自分のキャリアの方向性を探る「くらす?はたらく」シリーズとして、6月17日(土)「session2～お金?時間～」を開催し、好評のため8月5日に再開催しました。次回は「session3～都会?田舎(ふるさと)～」を12月9日(土)に開催予定です。

企業向けセミナーは、主に看護職採用を考えている県内の事業所を対象とした「採用力向上セミナー【入門編】」を好評により2回開催し、11月5日(日)には【実践編】を開催しました。

また、昨年度実施した「女子学生のキャリア・生活指向と就職先選択に関するアンケート調査」をまとめたリーフレットを作成中です。今後も意欲的に事業展開していきますので、ご注目いただけますと幸いです。



●「session2 お金?時間～」の様子



●「採用力向上セミナー【入門編】」の様子

さらなる飛躍に向けて(大学院での研究)

大学院紹介

特色1 多職種連携や学際的研究を通じた人材育成

保健医療福祉の向上に貢献できる高度な専門的能力を備えた人材の育成を目的とした博士前期課程(修業年限:2年)と、教育研究機関等の中核となる研究者の育成を目的とした博士後期課程(修業年限:3年)から構成されます。そして、

- 学問分野や職種横断的な研究領域として、「保健・医療・福祉政策システム領域」「対人ケアマネジメント領域」「基礎研究・実用技術領域」を設置しています。

特色2 柔軟な科目選択を可能とする「モジュール」によるカリキュラム

博士前期課程では、研究の基盤となる科目に加えて、専門科目を「モジュール」としたカリキュラムを用意し、自分の研究課題やキャリアパスに応じて、柔軟に科目選択ができるようにしています。また、基盤科目では、「健康情報論」「健康行動科学特論」等の「ヘルスリテラシー科目群」を設けています。

特色3 「CNS(専門看護師コース)」の開設

複雑で解決困難な看護問題を持つ個人・家族・集団に対して、水準の高い看護ケアを提供できる専門看護師を養成するため、「特色1」にある3つの研究領域に加えて、

- 「CNSコース(専門看護師コース)」(がん、周産母子)を開設しています。(平成29年10月現在、青森県内のがん看護専門看護師は2名)

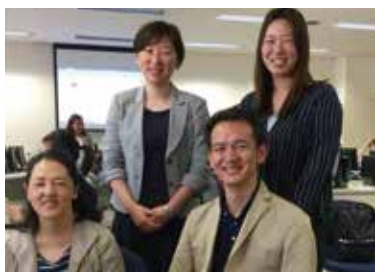
研究室紹介

看護システム研究室 保健・医療・福祉政策システム領域 (上泉 和子教授・鄭 佳紅准教授)



当研究室では、現在7名の大学院生が、それぞれの研究テーマに取り組んでいます。看護システムは、看護ケアの質の向上のためのしくみです。博士前期課程では、マネジメントの諸理論を学習し、それらを応用しながら組織分析を行い、ヘルスケアシステムの変革に向けて研究やシステム開発を検討します。また、病院、施設、在宅などの多様なヘルスケアサービスの場におけるマネジメントを学習します。博士後期課程では、深い学識や豊かな看護実践能力およびマネジメント能力をもとに、看護学の構築や自立して研究活動を行う能力を備えた研究者、高度専門識者およびそれらを育てる教育者の育成を目指します。

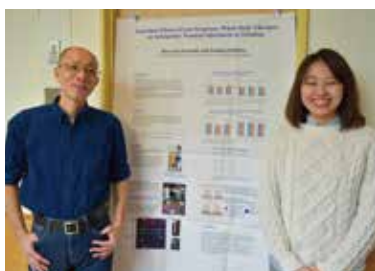
看護基礎科学研究室 対人ケアマネジメント領域 (角濱 春美教授)



当研究室では、現在3名の大学院生が看護学の基礎となる理論の開発や検証を目的とした研究を行っています。看護学は、人間という複雑な現象を対象とする学問であるため、さまざまな学問分野で開発された理論や概念を看護学に適用して発展してきました。

当研究室では看護技術の開発や、看護実践における課題を解決するために、それらの基盤となる理論を学習し、看護学を発展させるための方策を協議し、研究として組み立てていきます。「看護(学)は、何を目指し、何を特殊性としているのか」という問いの答えを探索しつつ、研究を進めています。

運動生理学実験研究室 基礎研究・実用技術領域 (岩月 宏泰教授)



当研究室では、現在2名の大学院生が理学療法学の基礎となる課題について、生体計測機器、表面筋電計などを用いて実験を行っています。最近の研究課題は、「動的ストレッチングが運動切り換えに及ぼす即時的効果」、「運動イメージが脊髄運動ニューロン興奮性に与える影響」「減算課題の表示の違いが歩容に及ぼす影響」、「合図の種類と頻度が予測的姿勢制御に及ぼす影響」です。

以上で、本学大学院の紹介は終わりますが、本学大学院をもっと詳しく知りたい方は本学ホームページや大学院案内もご覧ください。また、12月16日(土)13:00～16:00には、本学で大学院進学相談会も開催しますので、興味のある方はお気軽にお越しください。

特集

平成29年度国際科講演会

国際的に活躍している青森のひと～日本を出て見えてきたこと～

地域連携・国際センターは、「地域連携科」「国際科」「研修科」と3つの科で構成されていますが、今回は特集(第2弾)として11月11日(土)に開催された国際科講演会に焦点を当てて紹介します。

国際科講演会は国際交流や多文化共生を考える機会を提供し、他の国やそこで暮らす人々への理解に繋げることを目的として開催しています。昨年度は、青森県在住のお二人の外国出身の方に「外国人から見た日本～伝えたい青森の魅力～」について語っていただきました。今年度は、「国際的に活躍している青森のひと～日本を出て見えてきたこと～」をテーマに、青森市出身で海外において活躍された田山美由紀氏と山内リチャードソン澄子氏のお二人をお招きし、海外で活動しようと思ったきっかけや、活動の内容、日本に戻ってきて考えていることなどを語っていただきました。



写真向かって左が山内氏、右が田山氏です。

田山氏は青年海外協力隊（JICA）の看護師隊員として、モンゴルで2年間活動してきました。言葉の通じない国で、考えたこと、試したこと、医療や教育の世界で協力してきたことを、やわらかい口調で優しく語っていただきました。病院内の日本とモンゴルの現状の違いを受け止め、原因を考え、見方を考え対応することの大切さを示してくださいました。



田山氏



「行ってみないとわからない、やってみないとわからない」



「言葉や行動、物事の背景には必ず理由がある」



「外国と日本の橋渡し役になりたい」

山内氏



人と人との繋がりの大切さ「一人一人の点が、線でつながった」



参加者の皆さんは引き込まれながら聞いていました。

山内氏は、アメリカで地域福祉事業に従事し、現在はインバウンド受入や地域観光の支援事業を運営しています。かつてアメリカの様々な土地を訪れながら、言葉が通じなかった時に対等にできないつらさを感じたことや、ソーシャルワーカーとして活動した経験を熱く語っていただきました。「住み慣れた地域で、その人らしく最後まで」はこの国でも一緒にあることを伝えてくださいました。

研究推進・知的財産センター

研究推進・知的財産センターは、学内外の諸機関との連携を図りつつ、本県の地域特性に即した保健医療・福祉分野に関する研究をはじめとする学際的、総合的な教育研究を推進し、県立保健大学の学術研究水準の向上、地域における保健医療・福祉の向上に寄与することを目的としています。

今年度の取り組みについて

(1) 北東北ものづくりプロジェクト形成ネットワークへの参画と活動

北東北を中心としたさまざまな大学がスクラムを組み、知的財産について情報交換し、その数を増やし、実用化を目指していこうとするネットワークです。本学は、その幹事大学として活動しています。

(2) 本学の重点課題研究(プロジェクト研究)の推進

地域の健康に関する課題の解決に向けた研究を支援し、その研究成果を地域への還元することを推進しています。今年度の青森県保健医療福祉研究発表会では、研究成果をわかりやすく発表します(下段をご覧ください)。

(3) 「研究談話会」の実施

学内の先生方どうしが研究する上での相互理解をめざして、リラックスして情報交換したり、議論したりする場を設けています。異分野の先生方の共同研究が始まることも期待しています。

(4) 教員による研究活動の広報・周知

本学の先生方のホットな研究内容を地域の皆様にお伝えするため、教員へのインタビュー「保健大の研究最前線(研究室を訪ねて)」を実施しました。また、教員の研究概要を一覧にまとめた研究者カードの内容を更新し、今年度分を作成しました。



研究談話会の様子です。

左記の取り組みの詳細は、青森県立保健大学研究推進・知的財産センターホームページに掲載しております。是非、ご覧ください。



<http://www.crip-auhw.jp/index.html>

出展イベント紹介(一部)

「大学は美味しい!! フェア」に出展しました

期間 平成29年5月18日(木)～5月23日(火)

会場 新宿高島屋11階 催会場にて

概要 「アピオス」「ガズミ」使用商品の試食販売



2017年度青森県保健医療福祉研究発表会
日本ヒューマンケア科学学会 第10回学術集会

合同集会が開催されます

この発表会は、本学教職員・学生・及び県内の保健・医療・福祉に従事する方の日頃の研究成果を発表する場です。保健・医療・福祉についてご興味がある県民・学生の皆様のご来場をお待ちしております。

【主なプログラム】

● 教育講演

『健康・医療情報のチェックポイント』

● ようこそ! 保健大学研究室

～重点課題研究発表会～(県民・学生向けのわかりやすい発表です)

● シンポジウム

『健康情報とコミュニケーション』

開催日 平成29年12月16日(土)

時間 9:50～17:00

会場 青森県立保健大学
(A棟1階)



http://www.crip-auhw.jp/hashin/2017_kenkyu_happyokai_poster.pdf

保護者等(後援会)懇談会

今年度は大学祭初日の10月7日(土)に開催され、58組83名の保護者の皆様にご参加いただきました。

最初の全体会では、学長ほか本学の主な教員から、来年度から導入される新カリキュラムの概要や学生生活支援、就職支援状況等について説明をさせていただきました。次の学科別プログラムでは、各学科の特色をふまえた教育内容、学生生活及び就職に関する支援の状況等について説明をさせていただきました。最後の個別相談会では、それぞれの学科の教員が保護者の皆様からのご相談を個別にお受けしました。

ご参加いただいた皆様との対話を通じて、今回の懇談会が保護者の皆様と本学との相互理解を深め、本学の今後の教育研究活動と学生支援のあり方について共に考える貴重な場となりましたことを深く感謝申し上げます。



大澤後援会長からの挨拶



全体会の様子(壇上は上泉学長)

ヘルスリテラシー向上に向けての活動

本学ではヘルスリテラシー推進事業に継続的に取り組んでいます。その一環で2年前より学生と教員が協力し独自企画した事業を年度ごとに「ヘルスリテラシー向上サポート活動」として認定し、支援しています。今年度も4件の活動が進められています。その内容を表に示します。

チーム名	活動名
ヘルスリテラシー向上部	ヘルスリテラシー向上活動
Link Plus	青森県立保健大学版Link toposを立ち上げと拡大を図るための活動
チーム家族	元気フェスタPart II
おかず味噌汁健やか力向上委員会	おかず味噌汁を食して健やか力を向上させよう運動(フェーズ3)

また、大学祭での出展も行っており、3年目になる今年度は「CHL～Challenge for Health Literacy～健やか力への挑戦」をテーマに、本学4学科の特徴を活かした以下の出展を行いました。またこの機会に、前述した今年度の「ヘルスリテラシー向上サポート活動」の中間報告を行いました。

学内ホームページ「[すこやかナビ](#)」にヘルスリテラシー活動を紹介しております。ぜひ立ち寄ってみてください。

「健やか力」ヘルスリテラシー向上サポート宣言
青森県立保健大学の

挑戦

CLICK!

↑このバナーが目印です!



看護学科



血管年齢、内臓脂肪測定

理学療法学科



骨密度測定

社会福祉学科



シルエットパズルを活用した思考の柔軟性の促進と「アハ体験」、自然音によるマインドフルネス体験

栄養学科



食育 SAT(サット)システムによる普段の食事の栄養価測定、栄養教育カード展示



A TV 青森テレビ放送夕方帯番組「わっち!!」にて『ヘルスリテラシー向上部が行く!』放送中!
(毎月第4火曜日放送) 詳しい日程などは本学ホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会

